日本酒はうまい！

大工一元　代表
新迫弘康さん

岩瀬の古い街並みに残る伝統的家屋を復元・修復する

Profile

（しんさこひろやす）岡山県出身、富山市在住。1968年生まれ。富山大学を卒業後、工務店での勤務中に富山国際職藝学院の開校を知り、第一期生として入学する。卒業後、「大工一元（いちもと）」を立ち上げ、岩瀬の古い街並み再生修復工事に携わる。日本酒をこよなく愛する若き棟梁。

一人で行った修復工事が市の伝統的家屋修景事業に認定

「奥が昔からあった部分。そこだけは状態がよかったので残して、手前の部分は新しく作って繋げました。よく見ると色が違うでしょ」と、出格子の下にある持送りという飾り部分を説明する新迫さん。岩瀬の伝統的家屋の修復作業を請け負う大工の棟梁だ。

数年前から、岩瀬の古い街並みを残そうという動きが活発になっていた。その頃、たまたま岩瀬に来ていた新迫さんに修復作業の依頼が舞い込んだ。「願っても叶わない仕事だと思って、すぐに引き受けました」。最初に手掛けたのが「そば屋丹生庵」。全ての作業を4カ月かけて一人で行った。「小さな細工までしっかりした技術が施されていて、勉強になりました。それに、部材の一部だけ色があせていたら日が当たっていたのかなとか、この穴は釘が刺さってあいたんだなとか。建設当時が想像できておもしろかったですよ」。

その後、富山市が戦前に建てられた伝統的家屋の維持、復元を助成する「伝統的家屋修景事業」が始まり、岩瀬の本格的な街並み再生事業が始まった。

「いい仕事」をすることで大工の思想と技術を残す

現在岩瀬で手掛けている修復工事は5軒。今では10人の大工と共に作業を行っており、そのほとんどが母校である職藝学院の出身だという。「大工道具を使う、いい技術を知るなど、学校で教えられた思想を現場で実践するにはうってつけの場所。もっと来てほしいくらい（笑）」と、高い思想を持った仲間と日々勉強しながら作業を続けている。

「岩瀬は北前船の港町で栄えた街。だから建物に使われる材料もそれを建てた大工の技術も一流なんです。この通りの建物は大体120年前に建てられたものがほとんどですが、今でも残っているのは『いい仕事』をしているから。自分がやっている仕事は100年前の技術を100年後に伝える仕事なんです」。

熱い思いに支えられながら着々と再生しつつある岩瀬の街並み。これからも目が離せそうにない。